

2030年の持続可能な地域社会を創生するグローバル・リーダーの育成

考え抜く力 (課題発見力・計画力・創造力)
 協働する力 (柔軟性・傾聴力・状況把握力)
 行動する力 (主体性・実行力・働きかける力)

【育成する力】

【探究】

全職員で
育成

各教科・
科目授業
連携

グローバル
企業訪問

高大連携
授業

グローバル
講演会

外部連携

稲高生による千葉市創生プロジェクト

SDG sリサーチプロジェクト

英語力の
育成

海外研修

国際交流

英語
ディベート
授業

先進的な
英語教育
少人数授業
ネイティブ講師

グローバルな視点で
持続可能な地域社会
を創生！！

千葉大学
神田外語大学
東京情報大学
敬愛大学

千葉経済開発公社
千葉市社会福祉事業団
千葉市社会福祉協議会
千葉市を美しくする会

千葉市
千葉市教育委員会

グローバル企業
SMBC日興証券
等



アメリカ



カナダ



オーストラリア

千葉市立稲毛高等学校・附属中学校

コンソーシアム

地域連携
助言・協力

海外連携

調査研究
国際交流

ふりがな	ちばしきょういくいいんかい	ふりがな	ちばしりついなげこうとうがっこう・ふぞくちゅうがっこう
管理機関名	千葉県教育委員会	学校名	千葉県立稲毛高等学校・附属中学校

2019年度 地域との協働による高等学校教育改革推進事業 実施体制の概要

1 管理機関・学校の概要

(1) 管理機関名、代表者名

管理機関名：千葉県教育委員会

代表者名：磯野 和美

(2) 学校名、校長名、研究を実施する学科

学校名：千葉県立稲毛高等学校・附属中学校

学科：普通科 専門学科 総合学科

校長名：佐藤 啓之

2 取組内容

地域人材育成に資する地域課題の解決等に向けた研究を中心とした教育課程の研究開発の実施

考え抜く力（課題発見力・計画力・創造力）、協働する力（柔軟性・傾聴力・状況把握力）、行動する力（主体性・実行力・働きかける力）を身に付け、グローバルな視点を持って地域課題を解決することのできる持続可能な地域社会を創生する人材を育成する。

3 管理・運営方法

(1) 高等学校と地域との協働によるコンソーシアムの体制

機関名	機関の代表者名
千葉県立稲毛高等学校・附属中学校	佐藤 啓之
千葉県教育委員会	磯野 和美
千葉県	熊谷 俊人
千葉県美浜区役所	植草 栄司
千葉大学国際教養学部	小澤 弘明
神田外語大学	宮内 孝久
敬愛大学	三幣 利夫
東京情報大学	鈴木 昌治
株式会社千葉経済開発公社	志村 隆
千葉県社会福祉事業団	竹川 幸夫
千葉県社会福祉協議会	田辺 裕雄
千葉県を美しくする会	飯森 幸弘
SMB C日興証券	清水 喜彦

(2) 将来の地域ビジョン・求める人材像等の共有方法

運営指導委員会やコンソーシアム、校内の探究委員会・運営委員会と協議会等を持ち、求められる人材等の共有を図る。

(3) コンソーシアムにおける研究開発体制

地域協働推進校として千葉県立稲毛高等学校・附属中学校、管理機関として千葉県教育委員会を中心として、千葉県・高等教育機関（大学）・地域等、以下の各機関とコンソーシアムを構築する。

①地域協働推進校

千葉県立稲毛高等学校・附属中学校

②管理機関

千葉県教育委員会

③千葉市

総合的な探究の時間において、千葉市が実施している「市政出前講座」を活用し、課題研究活動を実施する。所管する事業について生徒に講義を行っていただき、各所管からの視点での千葉市における現状や課題を把握する機会を設ける。

千葉市立稲毛高等学校・附属中学校が所在する千葉市美浜区と連携する。区長は、申請校の学校評議委員であり、指導・助言をいただいている。美浜区役所では、地域活性化事業として、美浜区高校生連絡会議等を開催しており、地域における探究活動等を実施する際に連携を図る。

④高等教育機関

- ・千葉大学（国際教養学部）スーパーグローバル大学として採択
- ・神田外語大学
- ・敬愛大学
- ・東京情報大学

総合的な探究の時間における課題研究活動における成果発表会において、研究活動やプレゼンテーションの効果的な実施方法について指導・助言を行う。

敬愛大学については、平成31年3月に千葉市立稲毛高等学校と高大接続協定を締結した。

⑤地域

- ・千葉経済開発公社

地域のショッピングセンターの管理公社であり、課題研究の成果発表会場について協力を仰ぐ。

- ・千葉市社会福祉事業団
- ・千葉市社会福祉協議会

地域住民や各種団体（団体・機関・福祉施設など）と話し合い、協力し合い総合的な福祉の推進を図るために設置された地域福祉を推進する専門機関であり、探究活動において協力を仰ぐ。

- ・千葉市を美しくする会

本会は千葉市自治推進課にあり、その活動は、警察や交通安全協会をはじめとした各関係機関、市内ボランティア団体、各企業等と連携した地域コミュニティを振興する事業を実施しており、探究活動において協力を仰ぐ。

⑥企業

- ・SMB C日興証券

世界を舞台に活躍するグローバル企業を訪問することにより、生徒が学校での学びと自己の将来を結びつけて考える機会を設ける。

(4) カリキュラム開発等専門家（地域魅力化型・プロフェッショナル型）、海外交流アドバイザー（グローバル型）の指定及び配置計画

海外交流アドバイザー

若井 たかみ氏 元 千葉市国際交流協会事務局長補佐

- ・地域に在住する外国人の方々との交流活動について調整

(5) 地域協働学習実施支援員の指定及び配置計画

藤森 孝幸氏 敬愛大学地域連携センター室長

- ・地域の企業、各種団体との連絡調整
- ・フィールドワークの計画において、調査先と内容や日程を調整
- ・敬愛大学の地域連携センターとの連携をスムーズに行うため、連携協定を締結した。

(6) 運営指導委員会の体制

運営指導委員会（年2回、6月・1月）を開催し、本事業についての進捗状況等に対して指導・助言を行い、成果と課題を明確にする。

運営指導委員会委員一覧

番号	氏名	所属	職
1	藤川 大祐	千葉大学教育学部	教授
2	長田 厚樹	神田外語大学アカデミックサクセスセンター	センター長
3	岩崎 久美子	放送大学教養学部	教授
4	植草 栄司	千葉市美浜区	区長
5	藤井 剛	明治大学文学部	特任教授

(7) 研究成果報告・事業成果の検証に向けた計画

- ・運営指導委員会、コンソーシアム委員による評価
- ・GPS-Academicを実施し、結果を分析し、生徒の変容を評価
- ・学校評価で教員や保護者の変容を評価
- ・校内組織の運営状況
- ・大学、企業との連携状況
- ・「総合的な探究の時間」の運営状況
- ・成果発表会の開催及びコンソーシアムによる評価
- ・Webページや報告書、リーフレットの作成・配付

(8) 管理機関又はコンソーシアムによる主体的な取組・支援

英語・ドイツ語・中国語・フランス語の外国人講師を市費で雇用し配置している。

千葉市教育委員会は、千葉市学校教育審議会から千葉市立高等学校改革の方向性について答申をいただいた。千葉市立の高等学校で学ぶ生徒の多くは、小学校から高等学校まで12年間を故郷である千葉市で教育を受ける。答申では、故郷に愛着と誇りを持ち、感謝の念を抱き、本市を心のふるさととしつつ、自立した社会人として、本市をはじめ我が国や国際社会に貢献できる人材へと成長することで、千葉市が誇れる人材へと成長することを期待し、目指すべき人材像を「千葉市に誇りを持ち、千葉市が誇れる人材～ローカルな視点からグローバルな視点までを併せ持ち課題を効果的に解決することができる人材～」としており、グローバルな視点を持って社会参画できる若者を戦略的に育成する場として市立高等学校を位置付けている。

また、千葉市の市立高等学校2校のうち、千葉市立稲毛高等学校は市の英語教育、国際理解教育の拠点として位置付けられており、高等学校にとどまらず、中学校の英語教育等を先導する役割を果たしている。今後、本事業を通して、千葉市立稲毛高等学校・附属中学校を千葉市におけるグローバル人材育成の拠点校として発展させていく。千葉市教育委員会では、高等学校業務について、専門的な管理・支援を行う体制を整備している。

コンソーシアムの協力を仰ぎ、探究活動における基礎的スキルの醸成や千葉市の現状や課題を理解する機会の提供やグローバル企業から高等学校の訪問や講演、地域探究活動の成果を発表する場の提供等、取組みを実施する。

(9) 事業終了後の継続的な取組の実施に向けた計画

本事業指定終了後においても千葉市のグローバル人材育成の拠点校として位置づけ、ネイティブ教員の配置や海外研修旅費等、人的配置や経費等について継続的な支援を行う。

2019年度 地域との協働による高等学校教育改革推進事業 研究開発の概要

指定期間	ふりがな	ちばしりついなげこうとうがっこう・ふぞくちゅうがっこう				②所在都道府県	千葉県
2019～2021	①学校名	千葉市立稲毛高等学校・附属中学校					
③対象学科名	④対象とする生徒数					⑤学校全体の規模	
	1年	2年	3年	4年	計		
普通科	280	280	280		840	高校在籍者数 951名 (2019年度) (普通科 834名、国際教養科 117名) 附属中学校 239名(各学年80名定員)	
国際教養科	40	40	40		120		
⑥研究開発構想名	2030年の持続可能な地域社会を創生するグローバル・リーダーの育成						
⑦研究開発の概要	探究活動『稲高生による千葉市創生プロジェクト(1年)』及び『SDGsリサーチプロジェクト(2・3年)』、国際交流、海外研修、英語ディベート授業、グローバル講演会、グローバル企業訪問等により、グローバルな視点を持った課題解決能力を身に付けさせ、持続可能な地域社会を創生する人材を育成する。						
⑧研究開発の内容等	⑧-1全体	<p>(1) 目的・目標</p> <p>考え抜く力(課題発見力・計画力・創造力)、協働する力(柔軟性・傾聴力・状況把握力)、行動する力(主体性・実行力・働きかける力)を身に付け、グローバルな視点を持って地域課題を解決することのできる人材(グローバル・リーダー)を育成する。</p> <p>(2) 現状の分析と研究開発の仮説</p> <p>○現状の分析</p> <p>本校は「グローバル・リーダーの育成」を教育目標に掲げ、英語教育及び国際教育の先進校として過去にSELHiの指定を受け、プレゼンテーション、ディベート等の最先端の語学教育、国際交流、海外研修、語学合宿等を実践し、英語によるコミュニケーション能力の育成に大きな成果を上げてきた。</p> <p>一方で、本校には次のような課題がある。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 英語を話すスキルが身に付いても、論理的に考えたり、相手と粘り強く議論する力については課題がある。 2 市政や地域の抱えている課題に対する興味が薄く、自主的に地域の活動やボランティア活動に参加する生徒が少ない。 3 英語力を実際に活用して自主的にボランティア活動等に取り組む生徒や、積極的に留学したり海外大学へ進学したりする生徒が少ない。 <p>○研究開発の仮説</p> <p>研究開発によって次のような能力・態度を育成できると考えられる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 英語を単なる技能・知識ではなくコミュニケーションや課題解決を図るための道具としてとらえ直し、地域の課題解決や発展をグローバルな視点で考えたり発信したりすることができるようになる。 2 課題を解決するためには、自ら行動し、協働することが大切であると気づき、自主的に地域の活動やボランティア活動に積極的に参加するようになる。 3 探究活動等での体験を踏まえて、海外への留学や進学する生徒が増えたり、市民の一員として地域の発展に貢献しようとする意識が高まる。 					
		⑧-2	<p>(1) 地域との協働による探究的な学びを実現する学習の実施計画</p> <p>○探究活動(総合的な探究の時間)</p> <p>『稲高生による千葉市創生プロジェクト(1年)』</p> <ul style="list-style-type: none"> ・探究活動の基礎的スキルを身に付ける。(課題発見、フィールドワークの進め方、プレゼン技術等) ・千葉市の「市政出前講座」等を複数回実施し、生徒が千葉市における地域課題等を把握することができる機会を設ける。 ・SDGsの「17のゴール」に関連した千葉市の社会課題等について、調査研究を实 				

<p>⑧ 研究 開発 の 内容 等</p>	<p>⑧ -2 具 体 的 内 容</p>	<p>施し、課題解決策を提案して発表する。（ポスターセッション、口頭発表）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・常に解決策の実現可能性を検証するために、千葉市の政策担当者や市長との意見交換の場を設ける。（千葉市による全面支援） ・構築するコンソーシアムと連携して指導助言にあたる。（千葉大・神田外語大・東京情報大・敬愛大・千葉市国際交流協会・日本IBM、等） <p>『SDGsリサーチプロジェクト(2・3年)』</p> <ul style="list-style-type: none"> ・分野別のゼミ形式で研究を進める。 ・SDGsの「17のゴール」を意識した研究テーマを設定する。 ・海外で調査研究する生徒は、研究内容を英語で口頭発表し、英語で論文にまとめ、報告集を作成する。 <p>①アメリカ（ヒューストン）における調査研究（普通科20名、国際教養科20名）</p> <p>②カナダ（ノースバンクーバー）における調査研究（国際教養科20名）</p> <p>③オーストラリア（ブリスベン）における調査研究（普通科80名）</p> <p>○国際交流（派遣及び受入れ）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クレメンツ高校・ウッドランズ高校・カレッジパーク高校（アメリカ）との交流事業 ・ハンズワースセカンダリースクール（カナダ）との交流事業 ・ナンボア高校（オーストラリア）との交流事業 ・留学生との交流（メロス言語学院約60名） <p>○海外研修</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アメリカ・カナダ（国際教養科2年40名） ・アメリカ（普通科2年20名） ・オーストラリア（普通科内進生80名） <p>○英語ディベート授業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「英語表現」論題に関するリサーチやディスカッションをとおり、得た知識と英語力を駆使した意見表明と反論、説得力について生徒が評価し、高め合う。（普通科、国際教養科全員対象） <p>○グローバル講演会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グローバル化の進展、多文化共生社会等について、講師を招き全校講演会を実施。（年2回、8月と3月） <p>○グローバル企業訪問</p> <ul style="list-style-type: none"> ・世界を舞台に事業を展開するグローバル企業を訪問することにより、実社会で行われていることの本質や意義に触れ、働くことの尊さや喜びについて理解するとともに、学校で学んでいることと自分の将来を結びつけて考えることができるようにする。 <p>○高大連携協定に基づく大学授業の受講</p> <ul style="list-style-type: none"> ・千葉大学、神田外語大学における地域連携や国際理解に関する授業を受け、本校の卒業に必要な単位を認定する。 <p>(2)カリキュラム・マネジメントの推進体制</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コンソーシアムの構築により、地域が求める人材像の共有化や実施プログラムの改善を行う。 ・校内の探究委員会を中心に、教務部と各教科、国際交流部、進路指導部、各学年が連携して事業を進める。 ・各教科の授業で本事業の探究活動に資する内容を扱う。（シラバスに記載） <p>(3)必要となる教育課程の特例等</p> <p>特になし</p>
<p>⑨その他 特記事項</p>		<p>2018年度全国高校生英語ディベート大会全国3位。</p> <p>2003～2005年度及び2006～2008年度「SELHi」、2009年度「英語教育改善のための調査研究校」、2010～2011年度「教育課程改善のための教育研究開発校」、2013年度「学力把握実践研究協力校」に文部科学省より指定。</p>